

AIにはできない100年以上残る仕事、職人の技と心意気の真髓を徹底紹介!



Discover Japan

2017
September

2017年9月号(毎月6日発売)
8月5日発売/第9巻第9号/通巻70号

完全保存版
職人図鑑
&
最新職人
ハローワーク

職人という生き方

特集



杜氏



宮大工



茅葺き職人



鍛金職人



茶筒職人



ブレンダー



漆塗り職人



銅器着色職人

伝統工芸の未来を探る 日本漆×ラトビアの木工品／世界で活躍するサムライたち 開化堂 八木隆裕
……／クリエイターがいま注目する職人／海外の有名メゾンも注目する「大麻布」って何だ?／宮大工・
小川三夫、人間国宝の染織家・志村ふくみ 次世代への技の継承／守りたい職人技レッドデータブック

地方創生でニッポンを元気にする

地域ブランド
クリエイターズ
ファイル

地方創生のカギを握るクリエイターを、事例とともに
毎号紹介。プロダクト、食、イベント、アートなど、
地域を魅力的にするヒントが詰まっている。

文= 齋代裕夢 写真= 工藤裕之
text: Hiromu Daiyo photo: Hiroyuki Kudoh

建築家 / 川添善行 その場所の



西陣 緞加工職人

葛西郁子さん

10年後には残り1人になる技術!?

細やかで優雅な模様が目を引く西陣緞。最盛期には300人いたといわれる職人は、現在では7人。その中で唯一の若手職人が葛西郁子さんが、現状を打破するべく、従来の和装の緞加工と並行して2014年、西陣の織師、ライター、染色作家らとともに「いとへん universe」を設立。日常生活に合う西陣緞製品の製作をスタートさせ、2015年にはクラウドファンディングに成功。製作スタジオを設立し「つくること」と「伝えること」の両輪で活動を続けている。



製作・写真提供: WASHI CRAFT

COS KYOTOと洋装向け緞生地を製作

問: 葛西緞加工所
住所: 京都府京都市
上京区中書町680-1
設立: 2015年
弟子入り: 準備中
Tel: 075-812-4556
<http://itohen-univers.com>

絹壁紙職人

梅田峰良さん

家族経営によって守られる唯一のシルク壁紙

かつて、住宅にシルク製の壁紙が用いられることがあったが、安価な壁紙の登場とともに消えていった。「梅田シルク」が手掛ける絹布紙(きぬふし)は、国内産絹糸100%の織物に越前紙を裏打ち加工したもので、絹の染色から張り合わせ、仕上げ加工まで一貫して手作業で行われる。現在は襦袢紙のほか、海外のホテル壁紙などにも用いられ、好評を博す。梅田峰良さんは防災機能を実現させるなど、技術革新に余念がなく、現代に合った壁紙を生み出している。



絹布紙は www.ubushina.com で取り扱い

問: 梅田シルク
住所: 福井県越前市
大滝町29-33
設立: 1955年
弟子入り: 不可
Tel: 0778-42-0534
www.umedasilk.jp

柄絵箔職人

奥田憲一さん

ピークの10分の1の生産量「西陣織」の素材

「柄絵箔おくだ」は、「箔」という素材を製作する工房。金銀箔を押しした和紙に、油性や水性の塗料を置き、刷毛で引いて地模様をつくり出す。こうして誕生する箔は、京都を代表する織物である西陣織の横糸に用いられる重要な素材として用いられてきた。しかし、近年の西陣織の需要減とともに危機に瀕している技術のひとつだ。奥田憲一さんは職人の父から学び、さまざまな技法や素材を組み合わせるなどの研鑽を重ね、技術の継承に取り組む。



撮影: 中島光行

商品は COS KYOTO で取り扱い

問: 柄絵箔おくだ
住所: 京都府京都市北区
紫竹北栗栖町2-11
設立: 1978年
弟子入り: 不可
Tel: 075-493-0066

京和傘職人

西堀耕太郎さん

京都で唯一残る「京和傘」の工房

伝統的な和傘は、昭和初期には全国で約1700万本が使用されていたとされる。しかし、戦後の生活の洋風化に伴い、安価な洋傘が急速に普及。現在、全国で使われている和傘は2000~3000本ほどと推定される。京都に残る唯一の「京和傘」の工房「日吉屋」では、先代から受け継いできたかたちを守り、茶道や日本舞踊、社寺の行事などに使われる傘を製作。上質な真竹を骨や持ち手に使い、越前和紙や美濃和紙の伝統工芸士が漉いた楮(こうぞ)紙を用いる。



傘の内側に和紙を張る「手元」の工程

問: 日吉屋
住所: 京都府京都市上京区
寺之内通堀川東入ル百々町546
設立: 江戸時代後期
弟子入り: 不可
Tel: 075-441-6644
www.wagasa.com